

Ruby on Rails と私

Kazuhiro NISHIYAMA

関西 *Ruby* 会議08 *After Party*: 叡電LT 
2025-06-29

最初に

- ラジオ感覚で軽く聞いてもらえるような内容のつもり
- 途中で切られるのを想定して後ろの方の内容は薄い

自己紹介

- 西山 和広
- Ruby のコミッター
- GitHub など: @znz
- 株式会社Ruby開発 www.ruby-dev.jp
- Ruby関西初期メンバー

Rails を知った頃

- 2005年5月14日(土) の第3回Ruby関西勉強会で紹介されていた
<https://github.com/rubykansai/workshops/wiki/KansaiWorkshop003>
- 名前はもうちょっと前からみかけていた
- <https://rubygems.org/gems/rails> からバージョン履歴をみると当時は 0.12.1

その頃の印象

- いくつかある Ruby を使っているもののひとつ
- 流行るかどうかはまだわからないので、とりあえず知っておく
- GET と POST を区別しないとか Web に詳しくない人が作ってそう

HTTP メソッドについて

- 1995 年頃に読んだ CGI の本で区別が書いてあった
- 当時はライブラリを作るような人はみんな RFC とかちゃんと読んでいたと思っていた
- 実際にはそうではないし、全部読めるような量ではない(今はもっと無理)
- その本の10年後なのに区別してないのは大丈夫なのか? と思った
- 少なくとも当時の状態では使いたくないものだった

RESTful

- Rails 2.0 あたりで REST 重視になった
- GET POST 問題は解決していた

Rails 2.2 で i18n 対応

- gettext に慣れていたので機能不足では? という疑問があった
- 英語と日本語だけなら i18n でも困らない
- 複数形などのルールが複雑な言語に対応しなくなったときに困るのでは? という疑問は今でもあるが、必要になったことがないので未調査

RubyGems

- Rails は RubyGems より後にでてきた
- (setup.rb より後発だが C 拡張などへの対応が雑で今でも困ることがあるらしい...)
- RubyGems は同じパッケージの複数バージョンを同時インストール可能
 - deb や rpm では不可能だったので驚く (同時インストール可能にするにはバージョンごとにパッケージがわかれていた)
- (当然のように) Dependency hell が起きる

RVM と Bundler

- RVM の gemset で分離
 - RVM 以前は ruby に program suffix をつけて同じ prefix にインストールしていたが、RVM 以降は別 prefix にインストールするのが主流に
- Bundler の登場で gemset が不要に
 - Bundler のリリース時期は Rails 2.x 時代で Rails 3.0 で正式対応

Rails 3

- Merbとの統合など
- Bundler 対応以外は大きな影響はなかった気がする

JavaScript 関連

- 初期は prototype.js と script.aculo.us
- いつの間にか jQuery だらけ
- Angular.js, Vue.js など軽く使うこともあった
- YUI とか Backbone.js とかメンテナンス用にみたことがある
 - 古いとドキュメントが公開されなくなるライブラリは書き直すにも解読困難で辛い

その後

- 気になる新機能もあるけど今までのやり方でもなんとかなっていることが多い
- ここからどこでも切られても良い感じの話に

Rails 4 系

今は変わったりなくなったものも新しく入った頃

● 4.0

- Strong Parameters → `params.expect` (Rails 8)
- Turbolinks → Turbo など

● 4.1

- アプリケーションプリローダー-Spring → rails new で Gemfile に入らない
- `config/secrets.yml` → `credential`

Rails 5 系

- 気になる新機能もあるけど今までのやり方でもなんとかこなっている
 - Action Cable
 - form_with
 - Active Storage
- belongs_to の required: true がデフォルトになった対応が必要だった
 - semgrep で , optional: true を追加した

Rails 6 系

- 大きな新機能は特に使わず
 - Webpacker がデフォルト化
 - Action Mailbox
 - Action Text

Rails 7 系

- コンテナ系などでも rails new で生成されるファイルも参考にするようになった
 - 7.0 Dockerfile
 - 7.1 Dev Container (Development Container)
- Webpacker に移行していなかったらさらに変わっていた
- Hotwire の公式サポートも気になる

Rails 8

- `params.expect` が良さそう
- 標準で作成するデータベースが4個になった
 - `CREATE DATABASE` の権限が悩ましい